

## 平成 28 年度 視察報告

### 1、視察（研修）期間

平成 28 年 10 月 3 日（月）

### 2、視察（研修）先

福岡県うきは市役所

### 3、視察（研修）項目

地域経済分析システム（RESAS）を活用した政策形成について



### 4、視察（研修）の目的

行政としての確かつ効率的に産業政策を打ち出すにあたって、その根拠となる地域経済の現状やポテンシャルの分析が不可欠であり、うきは市が総合戦略策定にあたって積極的にRESASの分析結果を活用された具体的な事例や効果、今後の課題等について調査研究する目的で視察した。

### 5、視察（研修）内容

#### 【経緯】

うきは市は、2005年に2町が合併して誕生した人口3万1千人の市で、果樹・米・麦などの農業や製材などの林業が主要産業で、国民保養温泉地にも指定された観光地でもある。

「人口ビジョン」「地方版総合戦略」の策定にあたって、「うきは市ルネッサンス戦略検討本部」を中心にRESASを積極的に活用し、分析結果も随所に使用している。

## 【活用状況】



RESASの活用により、人口流出の原因、うきは市の産業特性とポテンシャル、現状の観光戦略の問題点を具体的に把握。

・人口：人口マップを活用し、将来にわたる人口減少の様子を再確認するとともに、**From-To**分析で年代ごとの人口流出先を把握し、原因推測と対

応策を検討。今後の展開として、住居と仕事のマッチングを図り、Uターン者・移住者の増加をねらうとともに、連携中枢都市圏構想の中での連携も検討している。

・産業：産業別事業所構成に占める割合の高い製造業について、雇用貢献度・コネクター度・ハブ度などの観点から導き出された可能性を分析し、優先的に誘致すべき企業や産業分野を明確化し施策の特化につなげている。

また、飲食店や卸売業・小売業、無店舗小売業の企業数分析から、産業を絞った若者の創業支援・経営者の若返り・意欲ある若者の呼び込みなど、「うきはのしごと拡大プロジェクト」に結びつける予定。

・観光：温泉や白壁土蔵の街並みなどの資源がありながら日帰り観光中心となっている現状のなかで、人の動きをリアルタイムに把握し、宿泊・飲食の経済循環や流動人口の多い地域との広域観光ルート開発や連携PRに力点を置いた取り組みを検討。

誰でも使えるが、行政限定メニューにはアクセスキーが必要

## 【今後の予定】

若手職員を中心にRESASサーフィンを勧めることや、RESASを導入する部署の拡大とともに、市内ワークショップや自治組織での活動計画検討の場での活用、政策コンテスト、学校教育への導入などを検討中

## 6、考察

今回、吉岡副市長から直々に説明していただいたが、「見せ方」という観点も含め、ビッグデータのもつ可能性とその活用による創造性をRESASというツールが大きく開いていると感じた。

元データは帝国データバンクのものらしいが、ビーコンによる観光客の行動調査やカーナビのデータなど、民間のもつ人やカネの流れ等、リアルタイムの情報を取り込むことでさらにポテンシャルは高まる。

必要な数値やグラフなどがコストも手間もかからず、画面のクリックだけで抽出・作成できるため、いろいろ仮説を立て検証してみたり、客観的な裏づけとして把握ができたりと、職員の肌感覚とあわせてうまく活用すればモチベーションのアップにも資する有用な道具である。

このツールを使いこなす職員のセンスは求められるが、産業連関表などのように作成にも活用にも技術が必要ではないため、直感的で手軽に使えるメリットは大きい。

ただ、精度的には分野によってデータのタイムラグもあって、これだけに頼りすぎるのは危険だが、現場でのヒヤリングなども加味しながら、うまく活用していくべきであると考える。

うきは市ではキーパーソンである副市長が自ら率先してRESASの活用を推進しており、使えるものは大いに使って活かしていくという強い思いと決断が感じられた。

高山市に当てはめていえば、こうしたデータに基づく人やカネの流れなどの分析＝「客観」に対する、施策の方向性＝「主観」が弱いような気がしており、「選択と集中」について、もっとダイナミックに踏み込んでいいのではないかとこの印象も受けた視察であった。

## 1、視察（研修）期間

平成28年10月4日（火）

## 2、視察（研修）先

山口県柳井市 「やない白壁の町並み周辺」

## 3、視察（研修）項目

重要伝統的建造物群保存地区の保存と活用について

## 4、視察（研修）の目的

他市における伝建地区の保存と活用について、視点や取り組み内容を調査し高山市の取り組みに活かすため。



## 5、視察（研修）内容

### 【経緯】

昭和59年に重要伝統的建造物群保存地区に指定。

白壁と格子窓の町並みは、延長約200mの街路に面した両側に江戸時代の商家の家並みが続き、間口が狭く奥行き長い建物は高山と同じで

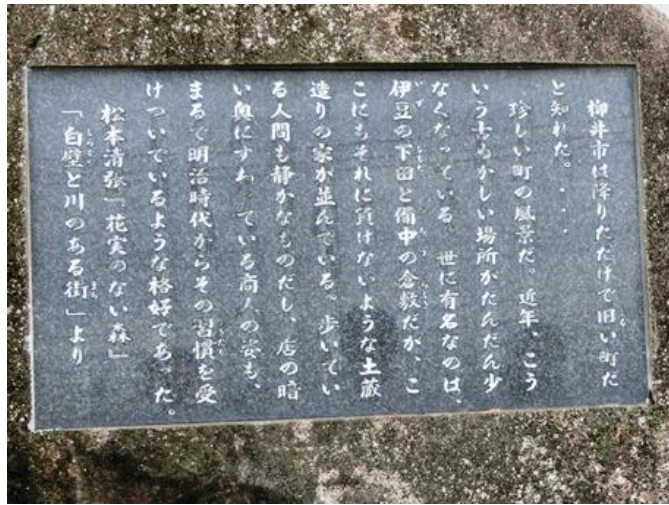
「うなぎの寝床」と呼ばれる江戸時代の商家の造り。

夏の祭り時期には、柳井を代表する民芸品「金魚ちょうちん」がまちなみの軒に飾られて風情を醸し出すらしいが、台風が接近する予報のため取り外されたと聞く。

柳井の特産品でもある独特の製法による甘露醤油の蔵が、かつては7軒あったが現在は2軒に減少。

## 【活用状況】

松本清張の「花実のない森」のなかで「白壁と川のある街」と紹介された



近世後半に建築された本瓦葺で白い大壁造の町屋が建ちならび、保存状態が良好である。

また、早くから電線の地中化が進められ、特色のある石畳の道すじはゆっくり散策ができる落ち着いたたたずまい。

商家や町屋がのこる200mの通り沿いに当時の豪商の屋敷「商家博物館むろやの園」や重要文化財の「国森家住宅」、

「国木田独歩旧宅」など見どころも多い。

夏の金魚ちょうちん祭りの前後には、夜まで軒先に金魚提灯を吊るして風情を醸し出す努力もされている。

## 6、考察

全国に110ヶ所選定された伝建地区のなかで、規模は小さい方だが往時の面影をしのばせる風情にあるまちなみに感じ入った。

静かなたたずまいが魅力ではあるが、にぎわいの創出という観点からすると工夫の余地はあるかもしれない。

伝建地区に指定されることについては、様々な規制がかかることに躊躇する向きもあったようで、指定の直前に改装されたという店舗が若干の違和感を抱かせた。

まちなみ保存会も組織されており、案内して下さったボランティアガイドの山近絹代さんは、全部で23人いるガイドの1期生とのことで、よどみのない説明もさることながら、このまちなみが大好きであるということを感じさせ、1時間の案内があつという間に過ぎた感。



高山のように土産物店ばかりでは味気ないが、地域経済の活性化につながるものがないと、居住者の高齢化や世代交代などで町並みの魅力喪失に向かわないかという危惧も覚えた。



1. 視察期間

平成28年10月5日（水）

2. 視察先

山口県 周防大島町

周防大島は、山口県東南部に位置し、愛媛県との県境に浮かぶ面積1381.17Km<sup>2</sup>の瀬戸内海で、3番目に大きな島。産業はみかんを中心とした農業、イワシ漁などの漁業である。また日帰り客の観光業も主になっている。島の人口も1980年に32,021人だったが、2016年の現在は17,382人と減少。さらに14歳以下の人口も1,179人と少子化が続いている。

3. 視察項目

キャリア教育とコミュニティ・スクールについて

4. 視察の目的

地域に愛される学校とは何か。地域と学校のつながりなど、地域とともにある学校づくりを目指した取り組みなど、今、全国的に進められているこうした取り組みを研究したい。

5. 視察内容

概要

(1) 周防大島町コミュニティ・スクールの特徴

目的：教職員、保護者、地域住民の協働により子どもたちの豊かな成長を支えていく。スーパーバイザーが町内5中学校を中心に地域とのつながりを持ち、学校を核としたまちづくり、地域づくりを進める

(2) 予算：町単独予算にコミスク事業（平成26年～平成28年）3年間計画

平成26年度2,274千円 平成27年度2,166千円

平成28年度2,069千円

(3) 文部科学省・県教育委員会の事業活用

平成25・26年度コミュニティ・スクール導入に関する実践研究指  
(久賀小・中)

平成28年度コミュニティ・スクールコンダクター事業(県教委の委託事業)  
(2,700千円)

(4) 町の後継者づくり・地域のつながりをめざしたコミュニティ・スクール  
(久賀中学校)での取り組み

平成25年度・コミュニティ・スクール設置の研究指定(2年間)

学校長は、地域貢献、地域にどうつながっていくかを考えた

生徒が体験を通して町の後継者に、中学生のときから若い大人との交流

「伝統行事に中学生の参加」「商工会青年部との連携」した取り組み

○引山太鼓…保存会の練習に教職員の参観、授業に導入し、中高連携の  
発表会で発表

○土曜夜市…実行委員会にゴミボランティアを提案、商工会から、ロゴ  
マーク作成とお化け屋敷受付の依頼、商工会青年部の指導のもと、出  
店に向け起業体験を通して若い大人と知り合いつながりができた

(5) 町内のコミュニティ・スクール

学校運営協議会

○委員…平均13.7人、民生委員児童委員、老人クラブ、婦人会、社  
会福祉協議会、(商工会、自治会、幼保小中、元教員(大学教授)、  
PTA役員、コーディネーター等

○開催回数…年平均4.4回

○協議の内容

- ・校長の基本方針の承認
- ・学校支援…地域は学校に何ができるか
- ・地域貢献…学校は地域に何ができるか
- ・学校評価アンケートの結果と対策
- ・網紀保持に取り組み
- ・中学校統合の取り組み
- ・その他(学校の様子、地域の声)

●学校支援では、月1回ドリル学習として、地域の方が学習の応援を通  
して子どもと大人がつながっている。さらに卒業生が母校で後輩の  
学習を応援してつながる。

●地域貢献では、敬老会で、小学生が高齢者の体力測定をサポート  
地域の方の健康増進でつながる。



学校が伝統文化の復活を呼びかけ途絶えていた県指定無形民俗文化財「なむでん踊り」を復活、祭りの継承に貢献している。

## (6) キャリア教育

キャリア教育とは、夢や希望を持ち、一人の社会人として自立できる、自分にふさわしい生き方を実現しようとする意欲や態度、能力の育成自ら（自立）とともに（協働）よりよく（創造）生きる力の育成その人の持っている力を最大限に発揮するためのサポートをする

周防大島町教育委員会 学校教育課 コミュニティ・スクールスーパーバイザーにより取り組む

○キャリア教育の推進として、1中から4中へ：合計100時間

学校名	開始年	テーマ	
東和中学校	平成22年度	2年：起業体験「アントレ」 3年：夢の逆算「夢のかけ橋」	総合的な学習の時間
大島中学校	平成26年度	1年：職業見学プレゼン 2年：キャリア相談「全員」 1. 2年：校内ハローワーク 1. 2. 3年：島の活性化プレゼン	総合的な学習の時間
安下庄中学校	平成27年度	2年：社会見学、民泊サポート 3年：中学校PRサイトの制作	総合的な学習の時間
久賀中学校	平成28年度	全学年：アフタースクールPJ	放課後

○平成28年度、東和中学校3年生キャリア教育「夢のかけ橋」

育む6つの能力：郷土への誇り、自己理解能力、キャリアプランニング能力、ICT活用能力、プレゼンテーション能力、作文能力、を学習し、

ふるさとに誇りを持ち自ら未来を切り拓くため、将来に実現したい「職業」夢を自らがプランニングすることで、未来志向の職業観、ふるさと志向の人生観、起業家型の勤労観を養うことで、将来どこにいても心は周防大島の応援団である

## 6. 考察

コミュニティ・スクールは、これまでの、「地域に開かれた学校」から一歩踏み出し、地域でどのような子ども達を育てるか、何を実現するかを地域が一体となって子ども達を育む「地域とともにある学校」づくりである。



今、少子化による人口減少や過疎化と言った危機的な課題がある中で、将来を見据えた町の後継者づくりを教育の現場で学校と地域が連携・協働し一体となって子どもたちを豊かに育てるとともに、地域に貢献する「地域とともにある学校」を目指した取り組みである。

また、各4地区の小中学校運営協議会が「協育ネット」を結び連携して情報を共有、それぞれの特色ある学校づくりをしている。

こうした、コミュニティ・スクールの導入にあたっては、教育長の熱い思いがあつてのことであると感じた。

また、コミュニティ・スクールと一貫したキャリア教育の取り組みでは、民間からの人材・スーパーバイザーにより、中学生から起業体験や将来の夢へのプランニングが進められていることにとっても感銘を受けた。

さて、高山市においては、地域に開かれた学校づくりが行われており、地域と連携した郷土教育や伝統文化の継承など進められているところであり、今回の視察で学んだ取り組みを参考に、今後の研究材料として深めてまいります。